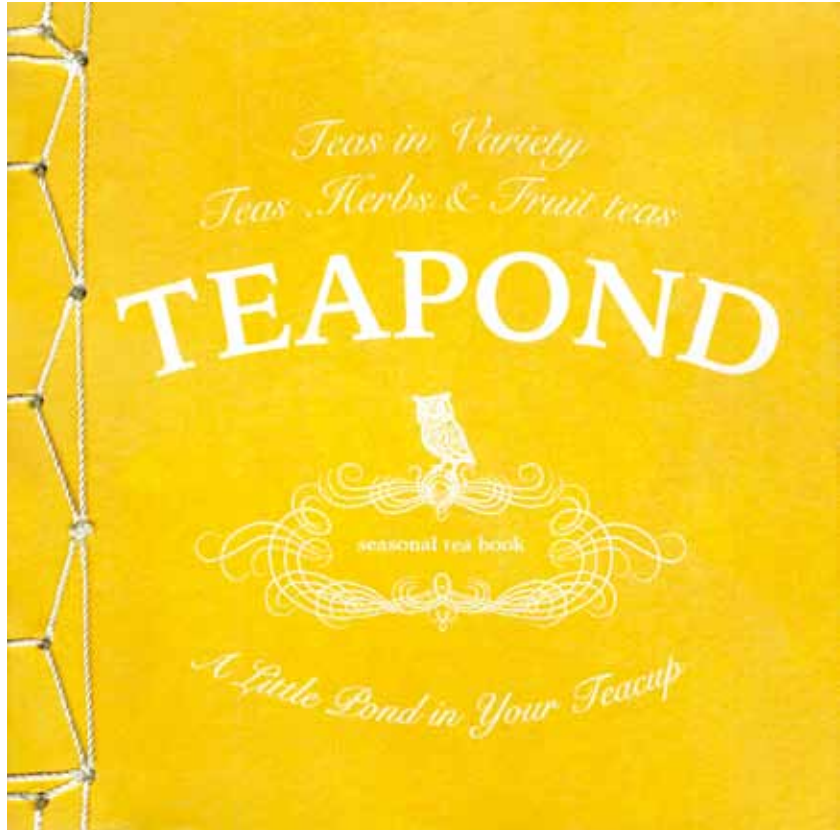


第12回生徒・学生グラフィック作品コンペ

最優秀賞 一般社団法人日本印刷産業連合会

東京都立工芸高等学校 全日制
3年 山本 はな

TEAPOND というお店の紅茶を季節ごとに紹介した本です。このお店は様々なフレーバや果物、国の紅茶を出していて、その商品それぞれから、絶え間なく変化する人の感情に寄りそうような情緒的な空気を感じます。そういった商品の魅力を伝えたいと思い、この本を制作しました。紅茶の暖かみが伝わるように紙のテクスチャを入れたり、手への収まりやすさを意識してサイズや形を考えたことなどが工夫した点です。特にお店の本来の雰囲気壊しすぎず、ナチュラルで明るい空気感を出すことを意識しました。



優秀賞 全日本印刷工業組合連合会



埼玉県立新座総合技術高等学校
デザイン専攻科 1年
フルシヨウ ムツキ
古庄 陸生

若者向けのショップのDMを想定して、パワフルさや疾走感を出すことを意識しました。ロゴや文字、図形等の配置にこだわり、一番時間をかけました。

審査員長：関 征春

審査員：大槻辰弥、岸正和、
久保遊、中西芳樹

優秀賞 日本グラフィックコミュニケーションズ工業組合連合会



東京都立六郷工科高等学校
3年 田邊 爽^{タナベ アキ}

この、表紙のデザインでは鈴と女の子、小鳥を真ん中に寄せ、目がいきやすくするようにデザインしました。表紙に書いてあるレンガを帯と合わせ、一体感ができるようにしました。絵はPhotoshopで描き、背景も想像で細かく描きました。空も雲を描き空っぽさを出しました。

優秀賞

一般社団法人日本グラフィックサービス工業会

大阪市立工芸高等学校
3年 アラタ ケンゴ^{アラタ ケンゴ}
3年 荒田 健吾



澄み渡る空を額で表現しました。

特別賞

株式会社産経新聞制作

大阪市立工芸高等学校
3年 ミヤケ ユウリ^{ミヤケ ユウリ}
3年 三宅 由莉



自分の好きな国旗をたくさんの人に興味を持って楽しく読んでほしいと思って作りました。

奨励賞

福岡市立博多工業高等学校 3年 ミヤザキ モエ 宮崎 萌



カレンダーのテーマは「も～も～らんど油山牧場の魅力」です。表紙は、大型滑り台を中心に見ていて楽しくなるようなデザインにしました。使用した写真は動物たちの躍動感のある写真を撮影しました。

東京都立六郷工科高等学校 3年 フジカワ リンナ 藤川 凜奈



幼少期から授業で用いられてきた金子みすゞのレトロで優しい世界観を表現するために、あえてデジタルではなくアナログの水彩画でカバーイラストを制作しました。雪が主人公であるこの話から、暗い夜のひんやりとした澄んだ空気感と、しんと降り積もっていく雪、そして地中へ向かうほどに薄暗く光の届かない本文中の様子を描きました。左袖はイラストの雰囲気に合わせ濃紺にし、右袖は本文を読んだ後の余韻が残るように背からイラストを続けた構成にしました。イラストに使用した色に白と黒が揃ってしまっているため題名の読み辛さをいかに緩和するかを考え、全体の空気感を損なわないようにまとめました。

東京都立六郷工科高等学校 3年 ワカヤマ リン 若山 凜



みんなちがって、みんないい。というフレーズから、優劣なくみんな平等、みんなが同じ目線というアイデアが浮かんだので、女の子の目元のあたりで横並びの構図にしました。

大阪市立工芸高等学校 1年 ヘイナイ トウコ 平内 陶子



半世紀以上続く祖父の豆腐職人の姿を歴史を感じられるように白黒で表現しました。

東京都立工芸高等学校 全日制 3年 キムラ ミナト 木村 港

『Giants』 自然はすごいです！



佳作

埼玉県立新座総合技術高等学校
デザイン専攻科 1年 徳増 このみ



earth music&ecology のDMを製作しました。earth music&ecology はシンプルなデザインの服や小物が多くDMデザインを文字と画像とロゴマークのみにして、シンプルなレイアウトに仕上げました。

東京都立工芸高等学校 定時制 4年 ^{タカギ ノリユキ}高木 教之



サーカスのピエロをイメージして描いた。やがて、左手にケモノが現れた。鮮やかな配色を意識した。

大阪市立工芸高等学校 2年 ^{ヨシハラ ソウ}吉原 壮

自宅近く整備工さんを撮りました。師弟関係を見て、教えている姿と真剣な眼差しで聞いている姿がとてもいい関係だなと思い、その関係と頑張っている姿を組み写真にしました。



大阪市立工芸高等学校 2年 濱口 昌太



作品の雰囲気それぞれ違った写真をRAW現像して、少し統一感を持たせた。

東京都立工芸高等学校 全日制 3年 西村 詩織

花や葉や光の質感が出るように、鉛筆のようなタッチを生かして表現しました。



総評

今年は新型コロナウイルスに抑え込まれている作品が多かったように思います。学生としての実験性よりオーソドックスな作品が目立ちました。先輩たちや現社会にいいお手本がありますが、研究の先にもっと新しい次世代が覗けるはずです。

最優秀賞の「TEAPOND」は手慣れたテクニックと大人の雰囲気を感しました。学生作品では珍しいことです。タイポグラフィは全般に可読性の整理、機能を重視していることは分かりますが、ビジュアル全体の詩や歌が感じられません。オリジナリティが重要です。機能と美のバランスは取りにくいですが、そこが面白いところです。イラストは構図も含め可能性ある良いものがありました。が、色彩計画がいまひとつです。写真は商業傾向ではなく、報道的なものも多く光りの計算・構図がよく優れたものがあった。

動き映像・サウンドにいいものがないのは、経験不足で作品を作る難しがあるからでしょう。そこが勉強ですが。次年度の取り組みに期待いたします。（関 征春）